

「平成30年度全国学力・学習状況調査」における 結果の考察と取り組み

木曽岬町教育委員会

4月19日に行われた「全国学力・学習状況調査」では、学力調査の他に、子どもたちに学習状況や学校生活・家庭生活についての問う調査や、学校に取り組み状況を問う調査が行われました。今月は、子どもたちの学習や生活、学校の取組状況について紹介します。

学習状況調査(児童・生徒質問紙)の結果

【○：全国平均以上　●：全国平均以下　□：全国平均と同程度】

質問事項	小学校(6年)	中学校(3年)
将来の夢や目標を持っている	●	○
家人の人と学校での出来事について話をする	□	○
放課後や休日に、家でテレビやビデオを見たり、ゲームやインターネットをしていることが多い（携帯やスマートフォンの使用を含む）	●	●
平日、学校での学習以外に1時間以上勉強している（学習塾等を含む）	●	●
平日、学校の授業以外に、1日当たり10分以上読書をする（教科書や漫画・雑誌は除く）	●	●
地域の行事に参加している	○	○
地域社会などでボランティア活動に参加したことがある	●	●
前年度の授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んだ	○	●
算数（数学）の勉強は好きである	□	●

学校質問紙の結果

小・中学校が前年度の取組状況を振り返り、「あてはまる」と回答した項目の一部を紹介します。

- 授業の中で、児童の特性に応じた指導上の工夫を(板書や説明の仕方、教材の工夫等)行った。【小・中】
- 教員が電子黒板等のICT機器を活用した授業を、ほぼ毎日行った。【小・中】
- 授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会を設定した。【小・中】
- コミュニティ・スクール等の仕組みを活かして、保護者や地域の人との協働による活動を行った。【小・中】
- 保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行った。【小】
- 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行った。【中】

調査結果より

- ・学習面については、子どもたちの学習意欲や理解度に課題が見られ、学校での指導上の工夫が、すべての子どもの学習理解に届いていない状況が見られます。「わかる」と実感できる授業を行うことが、子どもたちの自信につながり、将来の夢や目標につながっていくと考えます。
- ・家庭学習の時間については、全国平均を大きく下回っています。保護者の皆様の協力を得ながら、子どもたちに宿題や予習復習の指導を粘り強く行っていく必要があります。
- ・生活面については、家でテレビやDVDを見たり、ゲームやインターネットをしたりしている子どもの割合が高く、放課後や休日の家庭学習、また読書の時間が少なさに影響していると考えます。
- ・読書活動については、平日10分以上読書する子どもの割合は全国平均を下回るもの、前年度に比べ増加傾向にあり、学校における読書活動の推進や町立図書館と連携した取組に一定の成果が見られます。
- ・地域との関わりについては、地域の行事に参加している子どもの割合が高いことから、地域に目を向けた学習活動の取組が成果として表れてきています。

★今後、継続して取り組んでいくこと★

- ・保護者・地域の皆様から信頼される学校づくりに努め、協働して子どもたちを育てていく「地域とともにある学校づくり」をさらに推進していきます。
- ・少人数教育などきめ細かな指導を充実させ、子どもの意欲を高めながら学力向上に努めていきます。
- ・情報化・国際化などこれからの時代に相応しい新しい教育について対応していきます。
- ・家庭生活の過ごし方については、引き続き、学校と保護者の皆様で課題を共有し、家庭学習や読書活動の時間確保に向けた運動へと高めていきます。
- ・木曽岬の素材を生かし、地域に根付いた郷土教育や町立図書館を核とした読書活動を推進していきます。
- ・広報「きそさき」やホームページ、学校たよりなどで積極的な情報発信を行い、保護者・地域の皆様に子どもの育成について考えていただく機会を作っていきます。